

KITAYAMA SYOUBUZAWA-B SITE

北山菖蒲沢B遺跡II

— 県営ほ場整備事業芋ヶ沢地区に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2002.3

茅野市教育委員会

KITAYAMA SYOUBUZAWA-B SITE

北山菖蒲沢B遺跡II

— 県営ほ場整備事業芹ヶ沢地区に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2002.3

茅野市教育委員会

序 文

北山菖蒲沢B遺跡の発掘調査は、3次に分けて実施されました。平成7年度の調査につきましては、同年度に調査報告書が刊行されています。今回は平成8年度および平成9年度に実施された調査についての報告書を刊行いたします。

北山菖蒲沢B遺跡は、遺跡の中心にあたる谷から、現在も泉が湧き出し、あたかも尖石遺跡と与助尾根遺跡の地形を髣髴とさせるような、縄文時代の集落の景観を想像させるに十分な環境を残していた遺跡でした。北山菖蒲沢B遺跡は、尖石遺跡とは異なり、縄文時代前期末から中期初頭までの小規模な集落遺跡であることが発掘調査の結果判明しています。

また八ヶ岳西麓の他の遺跡と同様に、周辺の遺跡との関連が目に見える調査結果となっています。特に北山菖蒲沢B遺跡と隣接する北山菖蒲沢A遺跡は、出土した遺物から考えて、ほぼ同時期に残された遺跡であり、縄文時代の集落の移動や分布についての貴重な所見を得ることができました。

また、この遺跡は一部耕作などにより破壊されていたものの、遺存状態が比較的良好な遺跡であり、今回整理された考古資料は遺物の出土状況を通して、縄文人の生活を知るために適した資料であるといえます。

発掘調査にあたり長野県教育委員会、地元地権者の皆様、長野県諏訪地方事務所、茅野市土地改良課の深いご理解とご助力を得て、発掘調査を終了することができました。心からお礼申し上げます。

平成14年3月

茅野市教育委員会
教育長 両角 源美

例 言

- 1 本書は長野県諏訪地方事務所長と茅野市長との間で締結した「埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書」に基づき、茅野市教育委員会文化財課が実施した平成8・9年度県営ほ場整備事業芥ヶ沢地区に伴う、北山菖蒲沢B遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 北山菖蒲沢B遺跡は長野県茅野市北山に所在する。
- 3 発掘調査および遺物整理、報告書作成については、長野県諏訪地方事務所よりの委託金と文化財国庫補助ならびに県費補助を得て、茅野市教育委員会文化財課が実施した。調査の組織および名簿は第I章第2節に記載した。
- 4 発掘調査は、平成8年5月29日から実施し、遺物整理作業と報告書作成作業は平成13年10月1日から平成14年3月22日に行った。
- 5 本報告に関わる出土品と諸記録は茅野市尖石縄文考古館に収蔵・保管している。

目 次

序 文	
例 言	
目 次	

第I章 発掘調査の概要	1
第1節 発掘調査に至るまでの経過	1
第2節 発掘調査の方法と経過	2
第II章 遺跡の概観	4
第1節 遺跡の立地と地理的環境	4
第2節 周辺の遺跡	4
第III章 発掘された遺構	9

第 I 章 発掘調査の概要

第 1 節 発掘調査に至るまでの経過

田畑経営の合理化を目的とする県営は場整備事業が、長野県諏訪地方事務所により平成7年度に芹ヶ沢地区に計画された。事業範囲に北山菖蒲沢A遺跡、北山菖蒲沢B遺跡が位置することから、茅野市教育委員会文化財調査室により、平成6年12月5日から同年12月26日にかけて試掘調査が実施された。

平成7年1月11日、両遺跡の試掘調査の結果が報告され、長野県教育委員会文化課、長野県諏訪地方事務所土地改良課、茅野市農業基盤整備課、茅野市教育委員会文化財調査室の四者により保護協議が持たれた。協議の結果、北山菖蒲沢A遺跡については切土設計となる3,000㎡を対象に発掘調査による記録保存を行い、その他は盛土保存とし、北山菖蒲沢B遺跡については全面を発掘調査し、6,900㎡以上を記録保存することとなった。

平成7年5月1日、北山菖蒲沢B遺跡発掘調査に係る「県営圃場整備事業芹ヶ沢地区埋蔵文化財発掘業務委託」事業の契約が、長野県諏訪津方事務所長を委託者とし、茅野市長を受託者として締結された。しかしその後、北山菖蒲沢A遺跡を含む範囲の圃場整備事業の設計変更に伴い、同遺跡について当初予定されていた盛土保存が不可能となった。そのため、北山菖蒲沢B遺跡を含む県営圃場整備事業に係る発掘調査の計画変更が必要となった。

平成7年6月30日に、圃場整備事業設計変更に伴う北山菖蒲沢A、同B遺跡の保護協議が、前記四者により再度実施された。協議の結果、北山菖蒲沢A遺跡の調査を平成7年度に実施し、北山菖蒲沢B遺跡については、1,490㎡の範囲について平成7年度事業として実施することとなった。

以上の経過を踏まえ、平成7年11月15日付7教文第7-10-15号「県営圃場整備事業に係る茅野市内の埋蔵文化財の保護について（通知）」が長野県教育委員会より示された。これによると、北山菖蒲沢A遺跡、同B遺跡については前面を発掘調査による記録保存とし、発掘調査は茅野市教育委員会に委託する。発掘調査に係る経費は事業主が負担するが、圃場整備事業に伴う農家負担分の経費については文化財保護側が負担するというものであった。平成7年度保護協議に基づく保護措置として、未調査範囲となった北山菖蒲沢B遺跡については、平成8年度および9年度事業として調査が実施されることとなった。

平成8年4月10日、北山菖蒲沢B遺跡と芹ヶ沢地区に位置する山ノ神遺跡の発掘調査に係る「担い手育成基盤整備事業芹ヶ沢地区埋蔵文化財発掘業務委託」の契約書が締結された。この委託契約については調査開始後発掘調査面積が減少したため、平成9年1月29日に変更契約が取り交わされた。変更契約後の発掘計画書による事業総額は15,568,000円である。このうち、農政側負担分は14,089,000円（事業総額の90.5%）、文化財保護側負担額は1,479,000円（事業総額の9.5%）である。調査の経過については次章に譲る。平成9年度調査発掘調査計画書による事業総額は4,000,000円、このうち農政側負担分3,620,000円（事業総額の90.5%）、文化財保護側負担分380,000円（事業総額の9.5%）である。

北山菖蒲沢B遺跡の遺物整理および報告書作成は平成13年度に実施した。報告書刊行については、事業総額1,200,000円、農政側負担分1086,000円（事業総額の90.5%）、文化財保護側114,000円（事業総額の9.5%）の事業費内訳をもって事業が実施された。報告書作成については後節で述べる。

第2節 発掘調査の方法と経過

1. 発掘調査の方法

(1) 試掘調査

試掘調査はトレンチ法を用いた。表土剥ぎ作業については重機を用い、縄文時代住居址および土坑を検出した。平成6年度に実施された試掘調査により先土器時代遺物が検出されているため、一部調査員による手掘り作業を含む調査を行っている。平成8年度の遺跡範囲確認に際しても同様の方法をとった。

(2) 先土器時代の遺構調査

平成6年度試掘調査時、および平成7年度調査で先土器時代遺物が出土したため、重機による表土剥ぎ作業開始前に、人力による表土剥ぎ作業および包含層調査を平成8年度に実施した。調査範囲のうち尾根の先端から基部にわたる範囲に調査地点を設定し調査をおこなったが、先土器時代に属すると判定できる資料は出土しなかったため、重機による表土剥ぎ作業を実施することとした。

(3) 遺構及び遺物の出土状況の記録方法

遺構と遺物出土状況については、写真測量と平板測量、遺り方実測を状況に応じ適宜用い記録した。遺構の記録は縮尺1/20とし、遺物の分布状況は1/20を基本とし、調査員の判断により必要に応じ1/10の微細図を作成した。遺構測量、遺物出土状況の記録、遺物包含層から出土した遺物の取り上げについては、遺跡内に公共座標を基準とした2m四方のグリッドを設定し、遺物出土位置の記録および遺物取り上げ作業の基準とした。

(4) 遺跡内の土層観察の方法

土層観察には「新版標準土色帖」を用い、土層の色調の標準とした。平成8年度調査において、北山菖蒲沢B遺跡の遺構遺存状況が良好であることが判明し、遺物包含層の存在も予測されたため、土層の観察においては、耕作に伴う土壌の擾乱がどの程度及んでいるかに注目した。このため遺跡内数箇所に表土から遺構確認面に及ぶ土層観察用ベルトを設定した。

また八ヶ岳山麓の遺跡発掘調査では、通常ローム層上面を遺構確認面とするが、北山菖蒲沢B遺跡では、ローム層の上位にあたる通常漸移層と呼ばれる土層とさらに上位の暗褐色土層の境界面、あるいは暗褐色土層中で遺構が確認でき、遺構によっては黒色土層中から遺物の出土が確認された。このため重機による表土剥ぎ作業において、遺構が検出された場合あるいは遺物のまともな出土が確認できた面を確認面として取り扱った。この結果、北山菖蒲沢B遺跡においては、いわゆるローム層の上位に床面が設定された住居址が多く、遺物はより上位のレベルに遺存することが判明し、多くの遺物の出土状況を確認することができた。

2. 遺物整理と報告書の作成方法

遺物整理は、現地発掘調査継続中である平成8年度および9年度から実施し、報告書作成業務は平成13年度に実施した。発掘調査においては縄文時代前期末の住居址において従来不明確であった遺物の出土状態が確認できたため、遺構内からの出土遺物のうち、2cm四方の大きさをもつものを基準として、この大きさ以上の遺物について出土状況の記録を行った。

このため、遺物個々に整理番号をつける必要が生じ、基礎的な遺物整理作業を長期間継続することとなった。また遺物接合に関しては、遺物出土位置との対比が重要であるため、適宜接合作業段階での写真撮影等も行っている。報告書作成にあたっては、遺物接合関係の分析が報告できなかったが、今後分析を継続し資

料化を図る予定である。

3. 調査日誌 (抄)

平成8年度

- 5月29日 現地調査。地形写真撮影。
7月1日 先土器時代遺物包含層の有無についての確認調査を開始。7月5日まで20箇所確認調査実施。
7月11日 遺跡表土剥ぎ作業開始。7月18日には遺物包含層を検出。
7月22日 遺構検出作業を開始。調査は遺跡内を2つに分け、西側尾根先端側の調査を先行する。
7月29日 第1号、2号住居址、および土坑から遺構内の調査を開始する。
8月5日 第2号住居址より遺物分布図作成と取り上げ作業を開始。
9月2日 調査区東半部分の遺構検出作業を開始、検出した遺構から順次発掘する。
10月22日 航空測量作業開始。10月24日測量作業実施する。
11月12日 調査区西半遺構調査が終了。全体写真撮影。
1月6日 発掘作業が終了。残余の実測作業を行う。
2月14日 機材撤収作業を行い、現地を撤収する。

平成9年度

- 7月1日 重機搬入の上、表土剥ぎ作業開始。7月11日まで継続。
7月8日 遺構検出作業開始。発掘作業員による本格的な検出作業は7月16日から実施。
7月22日 遺構内調査開始。
7月30日 第1号住居址の検出。
8月22日 第3号住居址検出開始。発掘作業員による発掘業務は9月9日まで継続。
9月25日 株式会社写真測図研究所による遺構測量委託業務。トータルステーションを使用。
10月13日 株式会社写真測図研究所による遺物取上げ委託業務。この業務をもって現地作業は終了。

4. 調査組織

調査主体者 教育長 両角徹郎 (平成8・9年度) 両角源美 (平成13年度)

事務局 教育次長 宮下安雄 (平成8・9年度) 教育部長 伊藤修平 (平成13年度)

文化財課 課長 矢嶋秀一 係長 鶴飼 幸雄

守矢昌文 小林深志 大谷勝己 小池岳史 功刀司 百瀬一郎 小林健治 柳川英司 大月三千代

調査担当者 功刀司

発掘調査・整理作業参加者 (五十音順)

平成8・9年度

発掘調査補助員 赤堀彰子

発掘作業員 伊藤益郎 伊東みさを 今井寿恵子 今井ちよ 今井洋子 柿沢みゆき 金子清春 北沢一江

北沢みつね 栗原昇 小平長茂 小平久子 立木 利治 中川聡史 長田真 花岡照友 馬場きん子

原ちよ子 福田幸宗 北條嘉久男 保科常夫 宮坂節 宮嶋勝 宮嶋ユキ 森浩子 柳平文 柳平高好

渡辺郁夫 渡辺さち 渡辺つる子

平成13年度 整理作業員 大宮文

第Ⅱ章 遺跡の概観

第1節 遺跡の立地と地理的環境

北山葛蒲沢B遺跡は茅野市北山芹ヶ沢地区に位置する。遺跡は八ヶ岳西麓の北端にあたる地域となる。遺跡の北には洗川が西流している。洗川は、遺跡の北で音無川と合流し、上川となり、さらに西へ流れる。遺跡の位置する山麓台地は4km南の柳川に至るまで広がる山麓台地である。

八ヶ岳西麓と霧ヶ峰南麓は洗川を境界とする地形区分であるが、北山葛蒲沢B遺跡は八ヶ岳西麓の西端にあたる地域に所在する。遺跡からは霧ヶ峰南麓の扇状地と白樺湖を經由する大門峠、八千穂村方面に通ずる麦草峠を望むことが出来る。

八ヶ岳西麓は八ヶ岳山体に源を発する河川や、湧水を源とする河川により開析された東西に伸びる尾根が、八ヶ岳西南麓との境界である茅野市南端の柳川まで連続して連なる特徴的な地形をなしている。北山葛蒲沢B遺跡は、隣接する喜多山葛蒲沢A遺跡とともに、この特徴を良く見ることが出来る地点に立地する遺跡である。

北山葛蒲沢B遺跡は、2つの尾根を含む範囲をまとめた遺跡であり、2つの尾根の間には現在も湧き出す湧水がある。南側の尾根は平成7年度に調査が終了し報告書が刊行されている。湧水との比高差は3mである。

第2節 周辺の遺跡

北山葛蒲沢B遺跡の周辺には、大小の遺跡が群在する。この地域は農業基盤整備事業により多くの遺跡が調査され、遺跡個々の内容が判明しており遺跡群研究には最適な資料となっている。この遺跡群には北山葛蒲沢B遺跡のほか、北山葛蒲沢A遺跡、山ノ神遺跡、神ノ木遺跡、広井出遺跡、聖石遺跡、長峯遺跡が存在する。この遺跡群には、断続的な居住の痕跡が見出される。遺構遺物により判明した居住年代は、先土器時代後半、縄文時代早期押型文期、早期末、前期前半、前期末葉、中期初頭、中期前半、中期後半にわたる。

特に遺跡群構造の一端をしることができる時期として前期前半、前期末葉から中期初頭、中期後半の時期が注目される。

前期前半においては神ノ木遺跡が中核的な集落遺跡として目されているが、広井出遺跡においては早期末葉から前期前半中越式期の集落跡が検出され、立地を変更しながらの遺跡群形成をたどることが出来る。

同様な現象が縄文時代前期末葉から中期前半の遺跡である北山葛蒲沢A、B遺跡にはより複雑な形であらわれている。北山葛蒲沢A・B遺跡では前期末葉から中期前半の遺構が検出されているが、北山葛蒲沢A遺跡においては前期末葉の集落跡が中心となり北山葛蒲沢B遺跡では中期初頭集落が中心となっている。しかも両遺跡とも重複する時期の遺構を含み、単純に遺跡が移ったと見ることは出来ない。



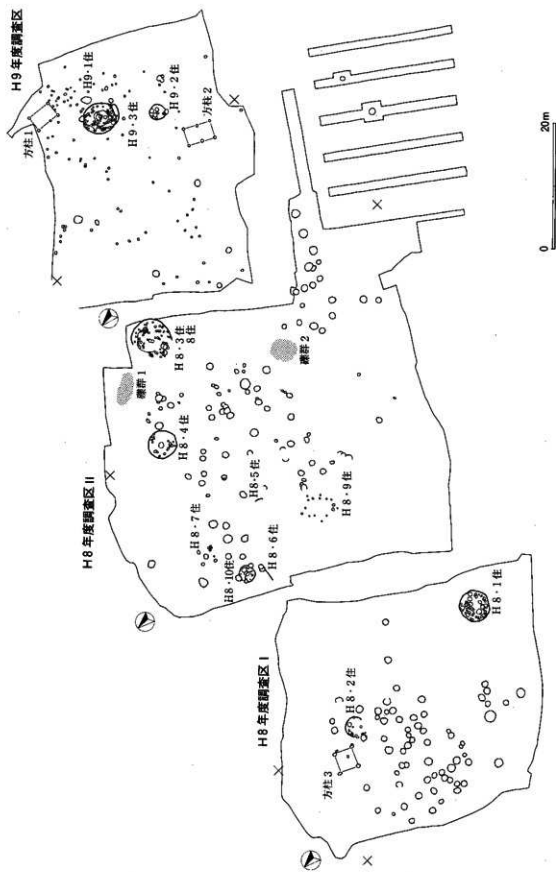
第1图 北山葛蒲沢B遺跡位置图 (1/50,000)



第2図 周辺の遺跡とその地理的位置 (1/15,000)



第3図 調査区と遺構分布図 (1/1,500)



第4図 遺構分布図 (S=1/600)

第三章 発見された遺構と遺物

第1節 発見された遺跡の種類と遺構

北山葛蒲沢B遺跡は、縄文時代前期終末、中期初頭、中期後葉および平安時代の集落遺跡である。遺構は比較的疎である。

集落を構成する遺構として、今回の調査においては堅穴住居址、方形柱穴列、土坑、集石（礫群）、土器及び石器が混在する遺物集中を検出した。土坑には大きく2つの形態が認められる。平面形が円形で直径1メートル前後の土坑と、住居址の柱穴に類似した直径が小さい土坑である。

縄文時代前期末葉及び中期初頭の集落は、前述したすべての種類の遺構から成り立ち、比較的遺構組成は豊富であるが、中期後葉および平安時代の遺構として時期が判明した物は堅穴住居址のみである。土坑は特に時期不明のものが多く、土坑の中でも柱穴様の土坑は、構築時期が判明した物は皆無に等しい。

遺跡の層序と遺構の認定

北山葛蒲沢B遺跡の遺跡依存状況は良好であった。遺跡基本層序では、いわゆるローム層の上に2つないしは3つの層が認められる。茅野市内においては所謂ローム層の上面を遺構検出面とするのが適当と判断された事例が多い。ローム層上面はこの遺跡の基本層序では第8b層から第9層にあたる。北山葛蒲沢B遺跡では、ローム層上面の褐色土すなわち第4図土層断面図第6層下部あるいは第7層上面での遺構検出が可能であることが、平成6年度の隣接地の発掘調査において確認できた。調査期間の関係から、遺構検出は重機による表土剥ぎ作業時に遺構の存在が確認できたものは、ローム層上面よりも上位の検出面を残した。遺跡調査風景において調査区内に台状に残された部分がそれである。遺構検出における認定基準は通常どおりで、基本的には覆土の色調によるが、遺物が出土した場合には作業員による検出作業を行い遺構の有無を確認しながら作業を進めた。遺構の認定は調査員と調査補助員が行った。

このような遺構検出作業の結果、北山葛蒲沢B遺跡の住居址の床面はいわゆる褐色土層下部からローム層上部に設けられている状況を確認した。第4図土層断面図におけるH9・2号住居址は縄文時代中期初頭から前葉にかけての住居址であり、第3号住居址からは中期初頭の土器が出土している。

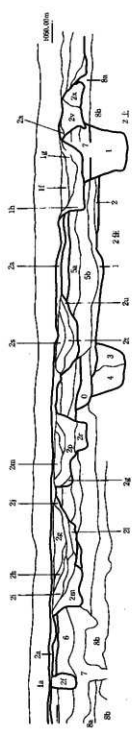
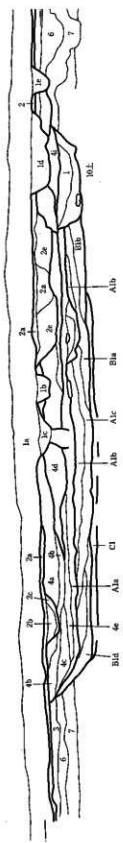
土坑については、ローム中に掘り込まれたものが大部分であるが、一部褐色土（土層断面図第7層）や黒色土層中にとどまる土坑もある。土坑中の遺物は土坑底面より上部に残される場合が多いが、今回の調査では第3層から第7層中での遺物の存在から土坑が検出された例が多い。なお柱穴状の土坑いわゆるピットについては、1基は第7層上面において確認できたが、他の大部分のピットは、第8a層から第8b層下部で検出した。

集石（礫群）および遺物集中は第3層で検出した。遺物集中は、集石（礫群1）と第3号住居址の間に位置するが、通常認定される遺物集中より遺物の密度は少ない。遺物の出土状況からみて遺物包含層に近いものであると思われる。

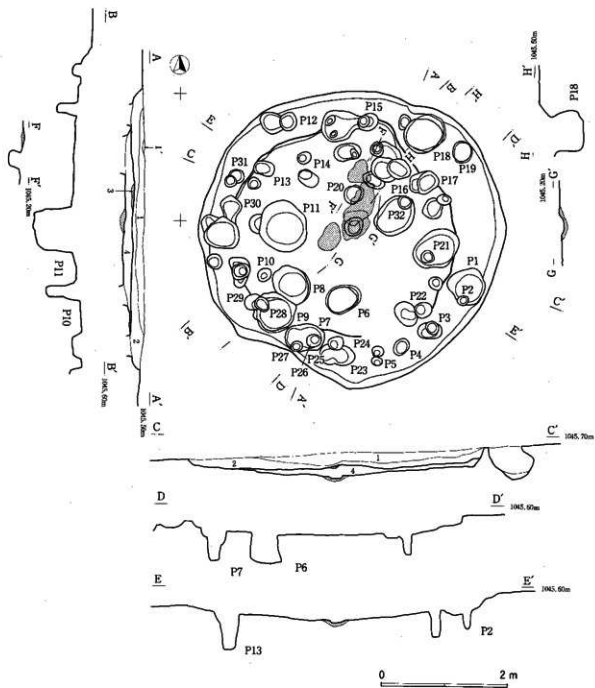
第2節 集落構成の特徴

北山葛蒲沢B遺跡は湧水がある低地をはさんだ隣接する尾根上に残されている。今回報告する地点南側の尾根北東には北山葛蒲沢A遺跡がありこの遺跡からも縄文時代前期末葉から中期初頭の集落遺跡がある。北

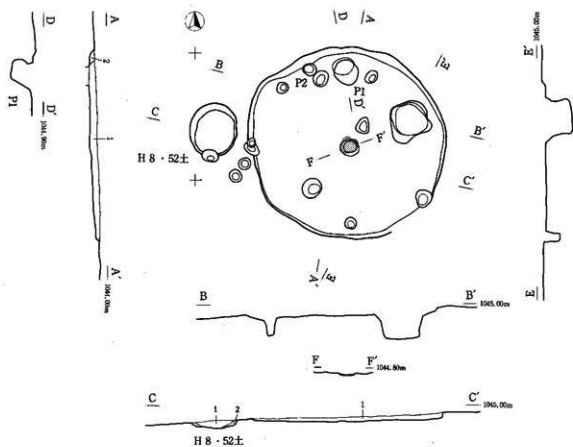
山富蒲沢A遺跡においても浅い谷をはさんだ隣接する尾根をまたぐように住居址が残されている。北山富蒲沢A遺跡においては尾根先端部に住居址が集中し、土坑群は台地平坦面が南北に広がる部分に広がる。北山富蒲沢A遺跡に比べ、北山富蒲沢B遺跡第Ⅱ次調査で検出された集落遺跡は、住居址は尾根の南北の斜面近くに構築され尾根平坦部分に土坑が作られ、遺構の占地型がより中期的な傾向を示す。



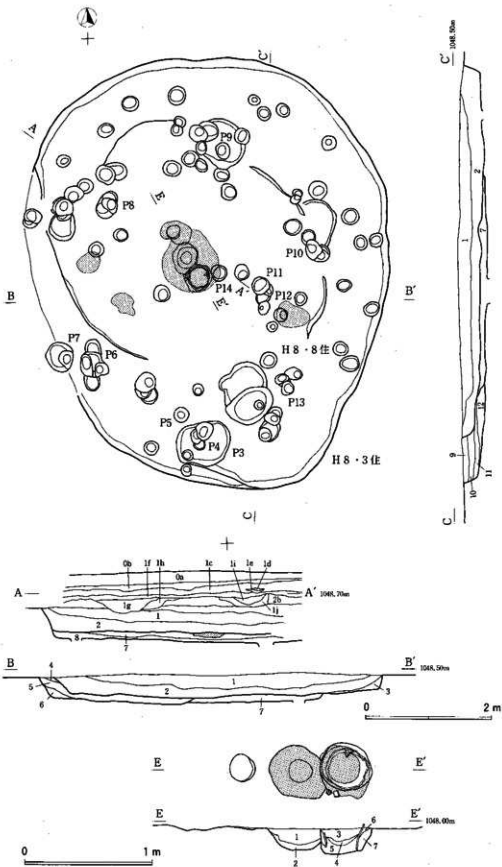
第5圖 H 9・2 住、3 住土層断面圖 (S=1/40)



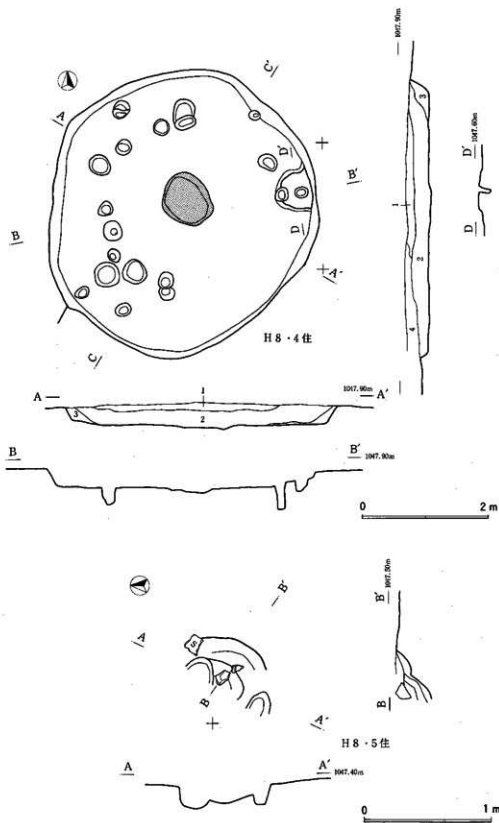
第6图 H8·1号住居址 (S=1/60)



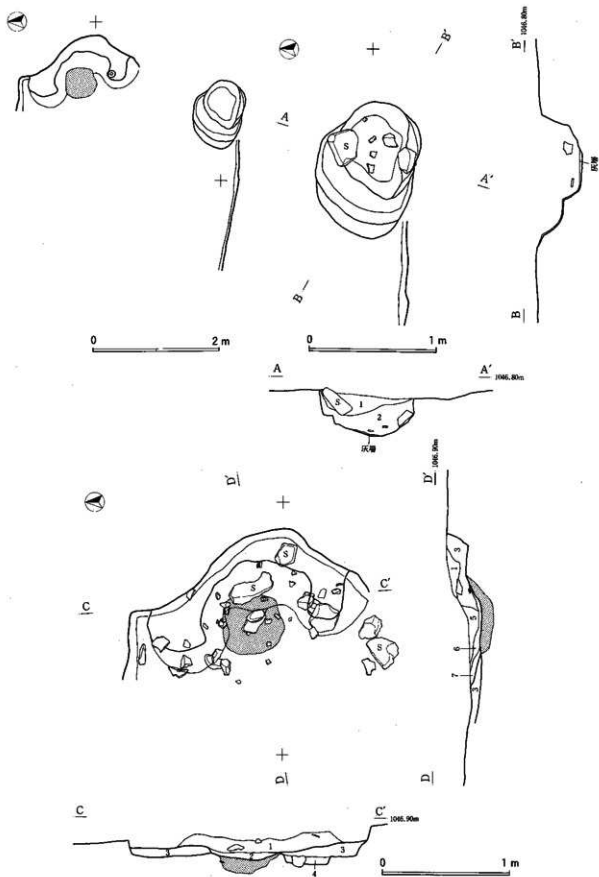
第7图 H 8 · 2号住居址、第52号土坑 (S=1/60)



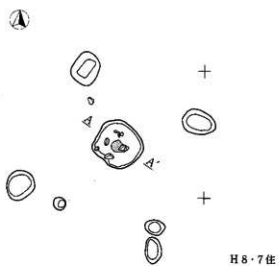
第8図 H 8 · 3号、8号住居址 (S = 1/60) と炊址 (S = 1/30)



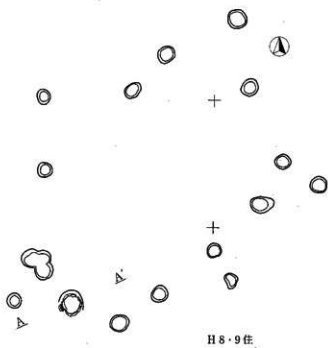
第9図 H8・4号住居址 (S=1/60)、H8・5号住居址カマド (S=1/30)



第10図 H8・6号住居址 (S=1/60) 土塼・カマド (S=1/30)



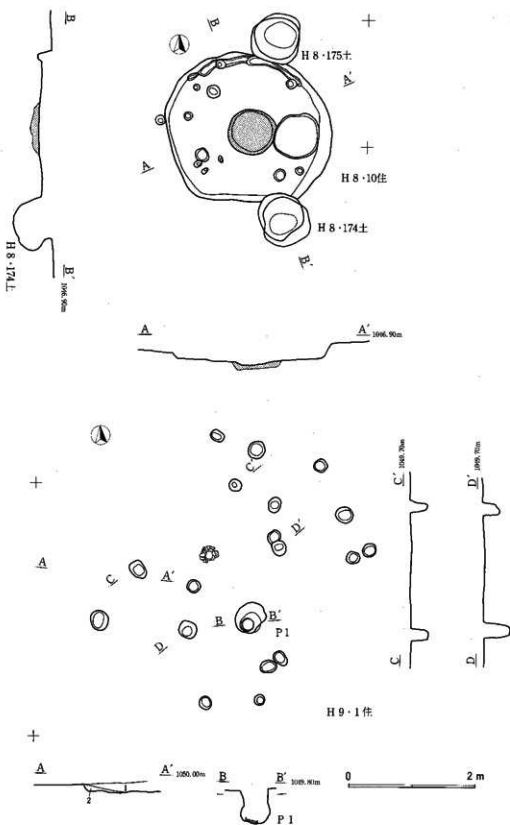
A A' 1049.10m



A A' 1047.30m

0 2m

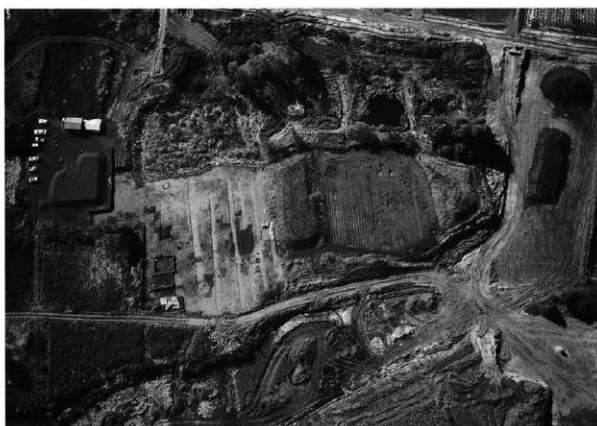
第11图 H 8 · 7号住居址、H 8 · 9号住居址 (S = 1/60)



第12図 H 8・10号住居址、H 9・1号住居址ほか (S = 1/60)



1 平成8年度調査範囲と遺跡周辺の状況（南から）



2 平成8年度調査範囲と遺構分布（北上空から）



1 平成8年度調査区全景と地形（西から）



2 平成8年度調査区南側の谷 開口部分（西から）



1 谷の湧水地点の現状（南東から）



2 H8・1号住居址と谷の位置関係（東から）



1 平成8年度遺構検出面 第1号集石と第1号遺物集中
(南から)



2 H8・4号住居址検出面と周辺の遺構確認面 (南西より)



1 第1号遺物集中北東側土層断面（南西より）



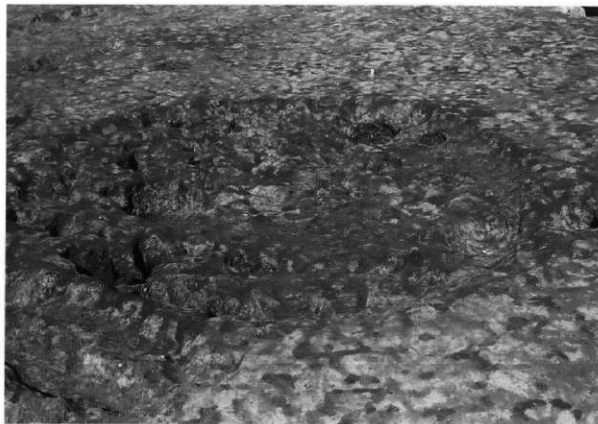
2 第1号遺物集中北東側土層断面・部分（南西より）



1 平成9年度調査区土層断面A'-A" (西より)



2 平成9年度調査第9号土坑検出面と遺構確認面 (南東より)



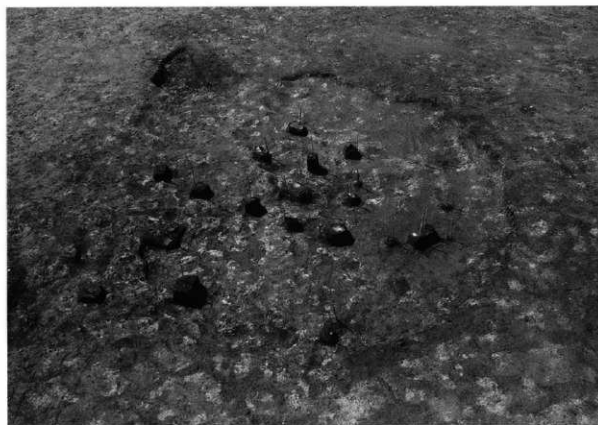
1 H8・1号住居址(南より)



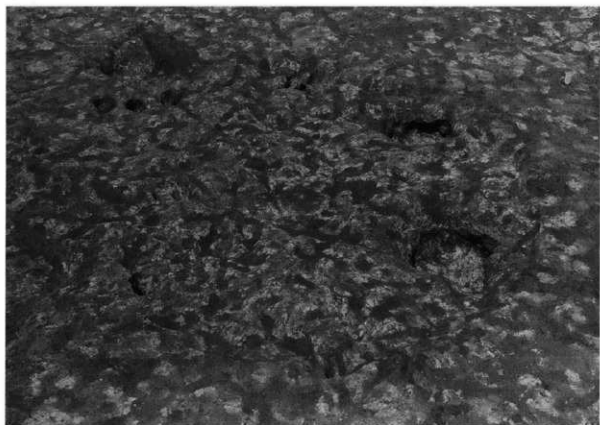
2 H8・1号住居址黒曜石集積遺構1



1 H 8・1号住居址黒曜石集積遺構1下部の土坑（南より）



2 H 8・2号住居址遺物出土状況（東より）



1 H8・2号住居址 (東より)



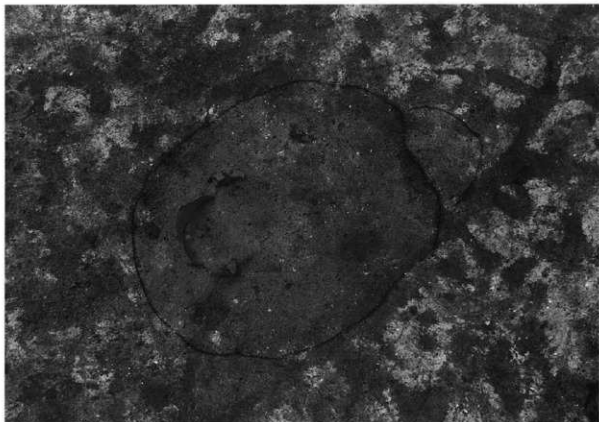
2 H8・3号住居址 遺物分布と地表面から検出面までの土層



1 H8・3号住居址遺物出土状況・部分（南より）



2 H8・3号住居址他（西より）



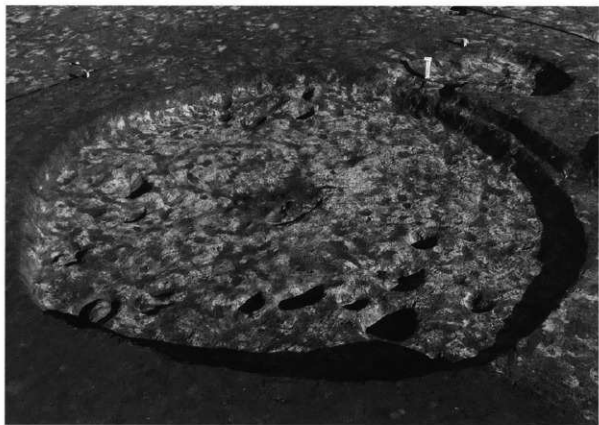
1 H 8・8号住居址炉址検出状況



2 H 8・8号住居址炉址(西より)



1 H8・4号住居址遺物出土状況（南東より）



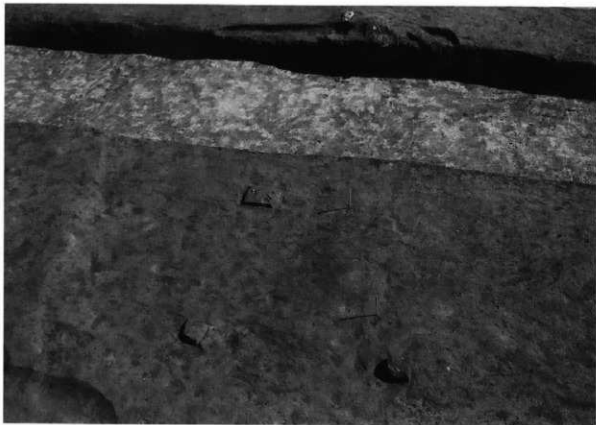
2 H8・4号住居址（南西より）



1 H8・4号住居址土壌状の部分(西より)



2 H8・5号住居址遺物分布状況(西より)



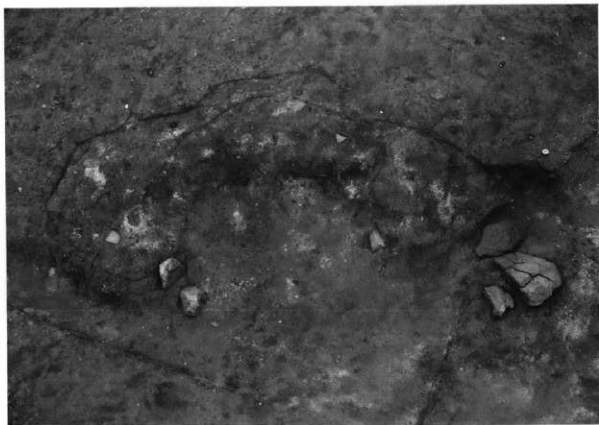
1 H8・5号住居址(西より)



2 H8・5号住居址カマド検出状況(西より)



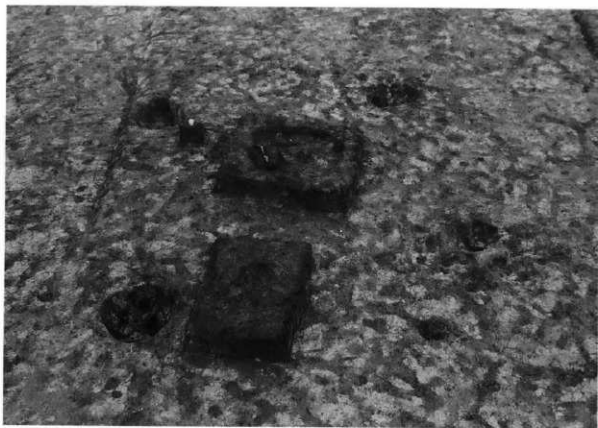
1 H8・5号住居址カマド(北西より)



2 H8・6号住居址カマド検出状況(西より)



1 H 8・6号住居址P 1と第164号土坑(西より)



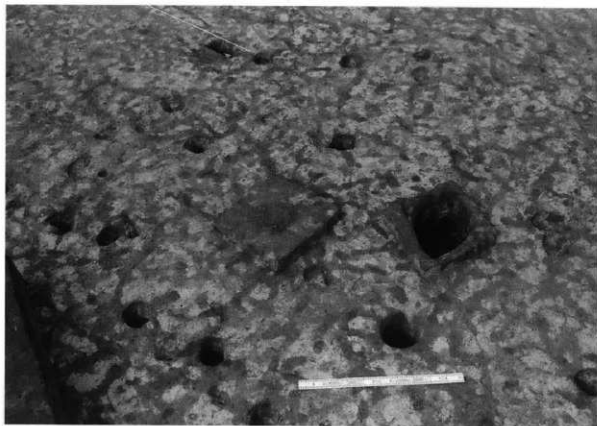
2 H 8・7号住居址



1 H8・10号住居址(西より)



2 H9・1号住居址検出状況とH9・1号方形柱穴列(南より)



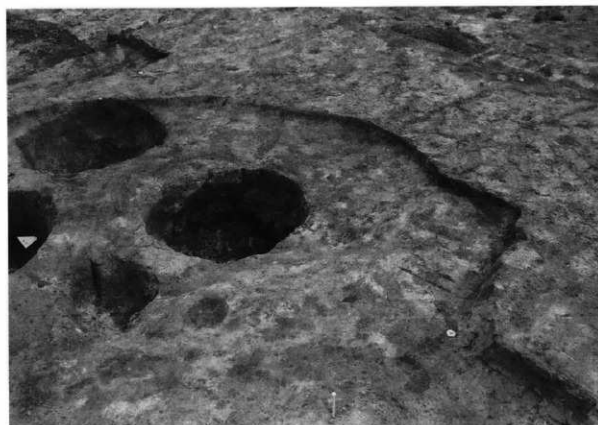
1 H9・1号住居址 (南西より)



2 H9・1号住居址跡址 (南西より)



1 H9・2号住居址(西より)



2 H9・2号住居址東壁(南より)



1 H9・2号住居址床面掘り下げ調査後（北西より）



2 H9・3号住居址遺物出土状況（南より）



1 H9・3号住居址(南より)



2 H9・3号住居址床面掘り下げ調査後



1 坩堝 (南より)



2 H9・1号方形柱穴列 (南より)



1 H9・2号方形柱穴列と平成9年度調査の住居址群（南より）



2 第1号集石（西より）



1 第2号集石と遺物分布状況（南より）



2 第2号集石 礎分布の中心（南より）



1 第1号遺物集中分布（西より）



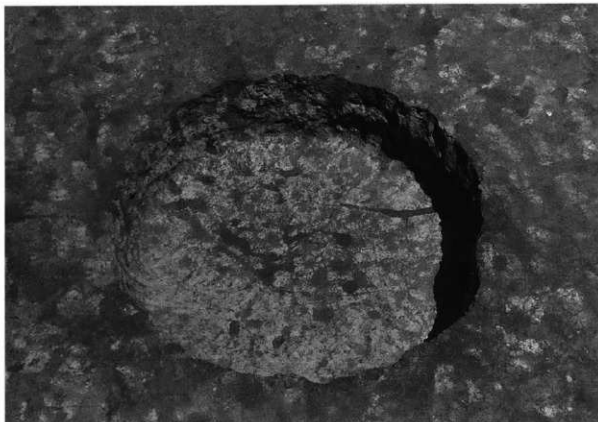
2 第1号遺物集中下層の遺物出土状況（南より）



1 第1号遺物集中ベルト取り外し作業及び土坑検出作業（南西より）



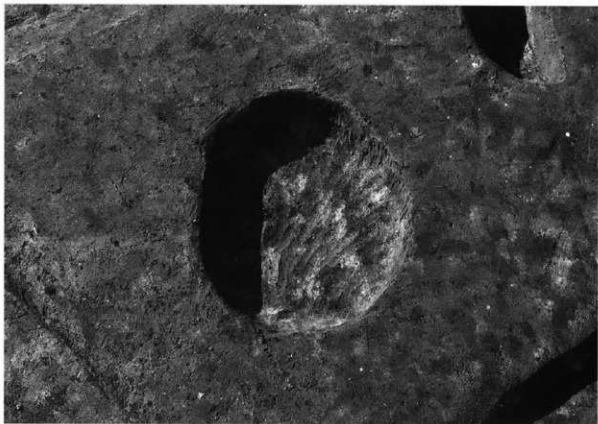
2 第1号焼土埴と炭化物分布状況



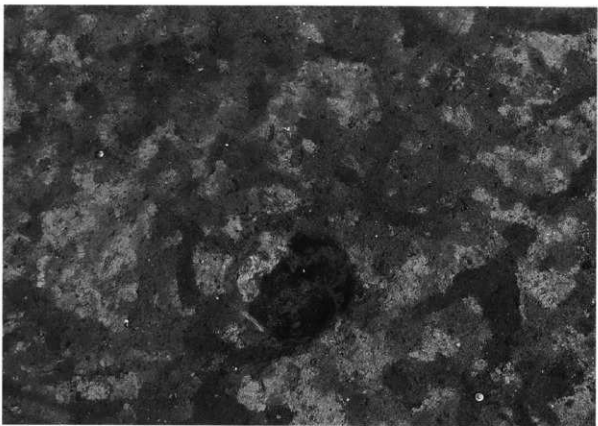
1 H8・6号土坑(西より)



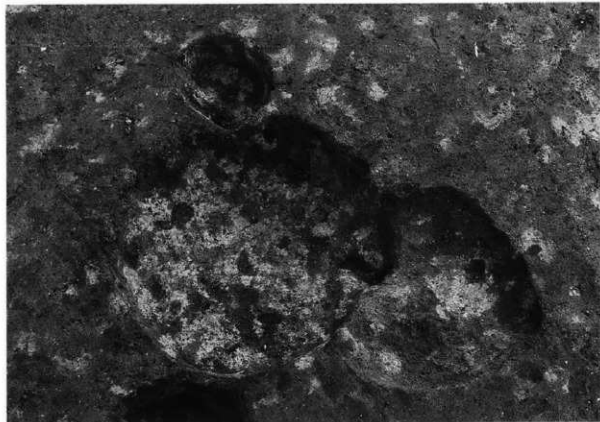
2 H8・137号土坑(西より)



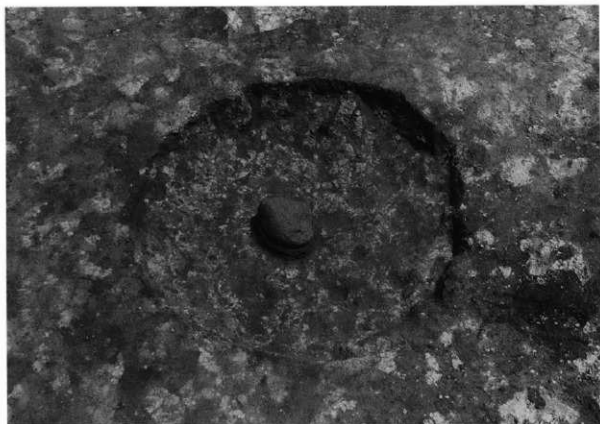
1 H 8・152号土坑 (南より)



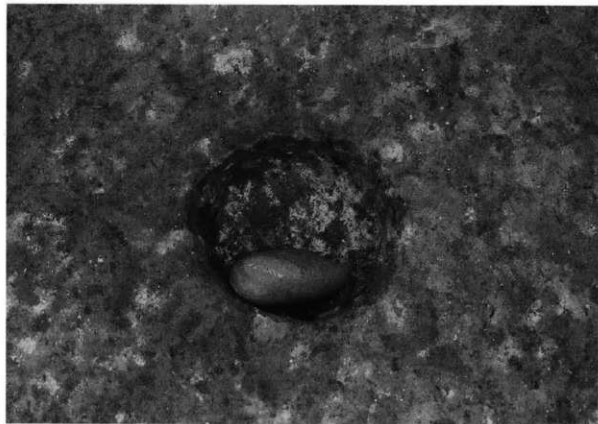
2 H 8・103号土坑 (西より)



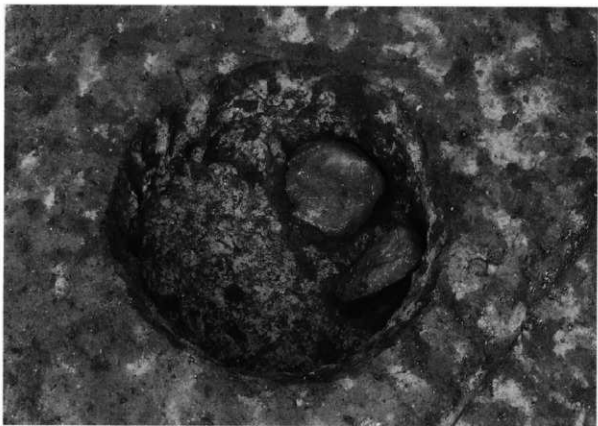
1 H 8・115、116号土坑 (西より)



2 H 8・1号土坑 (西より)



1 H 8・119号土坑 (南より)



2 H 8・149号土坑 (南より)



1 H 8・109号土坑(東より)



2 H 8・177号土坑周辺の遺物検出状況と遺構確認画



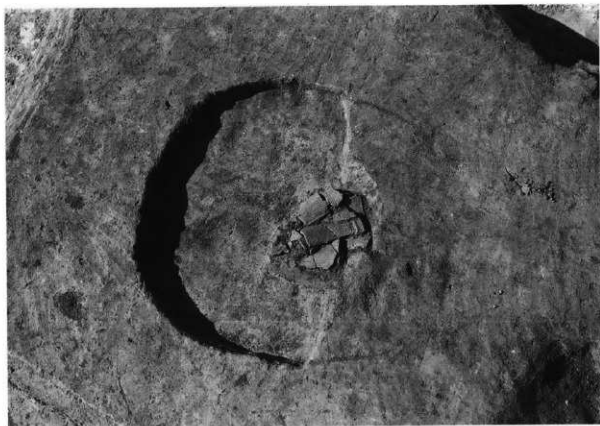
1 H 8・127号土坑 (南より)



2 H 8・129号土坑 (南より)



1 H 8・129号土坑遺物出土状況 (南より)



2 H 8・137号土坑遺物出土状況 (東より)



1 H 8・144号土坑遺物出土状況



2 平成9年度調査作業参加者

報告書抄録

ふりがな	きたやましょうぶざわBいせきⅡ							
書名	北山萬蒲沢B遺跡Ⅱ							
副書名	担い手育成基盤整備事業芹ヶ沢地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	功刀 司							
編集機関	茅野市教育委員会							
所在地	〒391-8501 長野県茅野市塚原二丁目6番1号 0266-72-2101							
発行年月日	西暦2002年3月22日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〇.〇〇	東経 〇.〇〇	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きたやましょうぶざわ 北山萬蒲沢B	ながのけんまのの 長野県茅野 市北山萬 蒲沢	20214	237	36度 01分 19秒	138度 14分 27秒	19960529 ～ 20020322	6,500㎡	県営は場整備 事業芹ヶ沢地 区に伴う発掘 調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
北山萬蒲沢B	集落址	縄文 平安		竪穴住居址 9 前期末～中期初頭 方形柱穴列 1 土坑 178 竪穴住居址 2	前期初頭・中期初頭 土器片 剥片・碎片 石鏃・スクレイパー 土師器	縄文時代前期 末から中期初 頭が中心とな る集落遺跡		

北山菖蒲沢B遺跡Ⅱ

—県宮ほ場整備事業序々沢地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成14年3月20日 印刷
平成14年3月22日 発行

編集 茅野市教育委員会
発行 長野県茅野市塚原2丁目6番地1号
☎ (0266) 72-2101
印刷 永明社印刷所
長野県茅野市塚原2丁目12番30号
